

6. 第5群（身の回りの世話等関連）中間評価項目得点の経年的変化

1) 調査対象者全体

要介護高齢者における第5群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点は、1回目 69.74点、2回目 67.40点、3回目 62.00点、4回目 67.40点と回数を経るごとに点数が有意に低下していた。

表 2-26 第5群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	サンプル数	平均値	標準偏差	変動係数	最小値	最大値
1回目	72660	69.74	27.50	0.39	0	100
2回目	72660	67.40	27.86	0.41	0	100
3回目	72660	62.00	30.17	0.49	0	100
4回目	72660	56.63	31.85	0.56	0	100

**P<0.01 *P<0.05

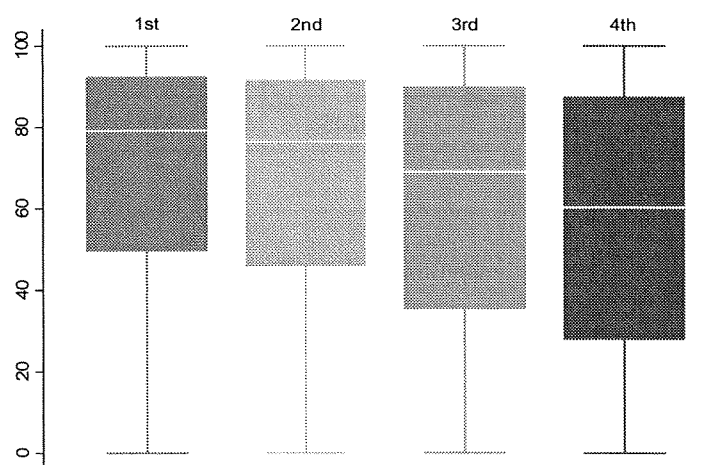


図 2-26 第5群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）

2) 男女別

男女別に要介護高齢者における第5群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点を比較した結果、男女ともに回数を経るごとに得点は有意に低下していた。また、いずれの認定回数においても、女性が男性より得点が有意に高い傾向が見られた。

表 2-27 男女別第5群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	男性(N=22,469)	女性(N=50,191)	男女差
1回目	64.79	71.95	**
2回目	62.70	69.50	**
3回目	57.18	64.15	**
4回目	51.28	59.03	**

**P<0.01 *P<0.05

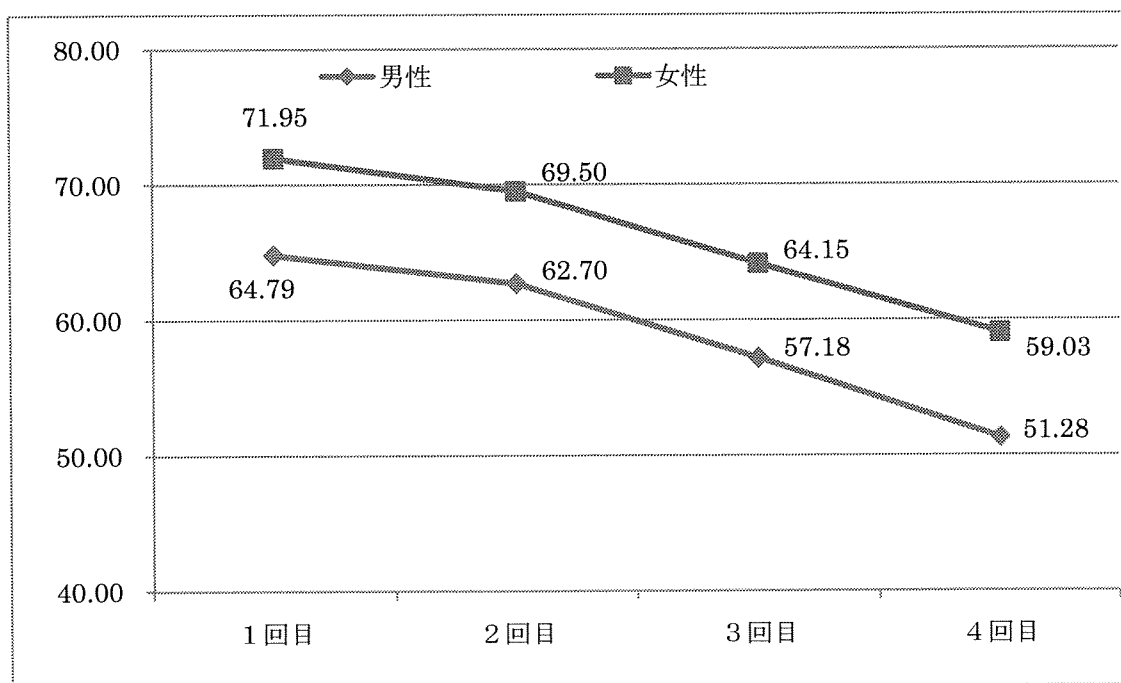


図 2-27 男女別第5群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

3) 年齢階層別

年齢階層別に要介護高齢者における第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点を比較した結果、65 歳未満の 1 回目から 2 回目を除き、すべての認定回数すべての年齢階層において 1 回目から 4 回目にかけて、回数を経るごとに有意に得点が低下していた。

表 2-28 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	65 歳未満	65 歳以上 75 歳	75 歳以上 85 歳	85 歳以上 95 歳	95 歳以上
	(N=2,769)	未満 (N=14,043)	未満 (N=33,094)	未満 (N=21,472)	(N=1,282)
1 回目	59.60	69.22	72.75	67.65	54.41
2 回目	59.63	67.82	70.34	64.51	52.09
3 回目	57.14	63.86	64.98	57.79	45.43
4 回目	54.91	59.98	59.60	51.19	38.08

**P<0.01 *P<0.05

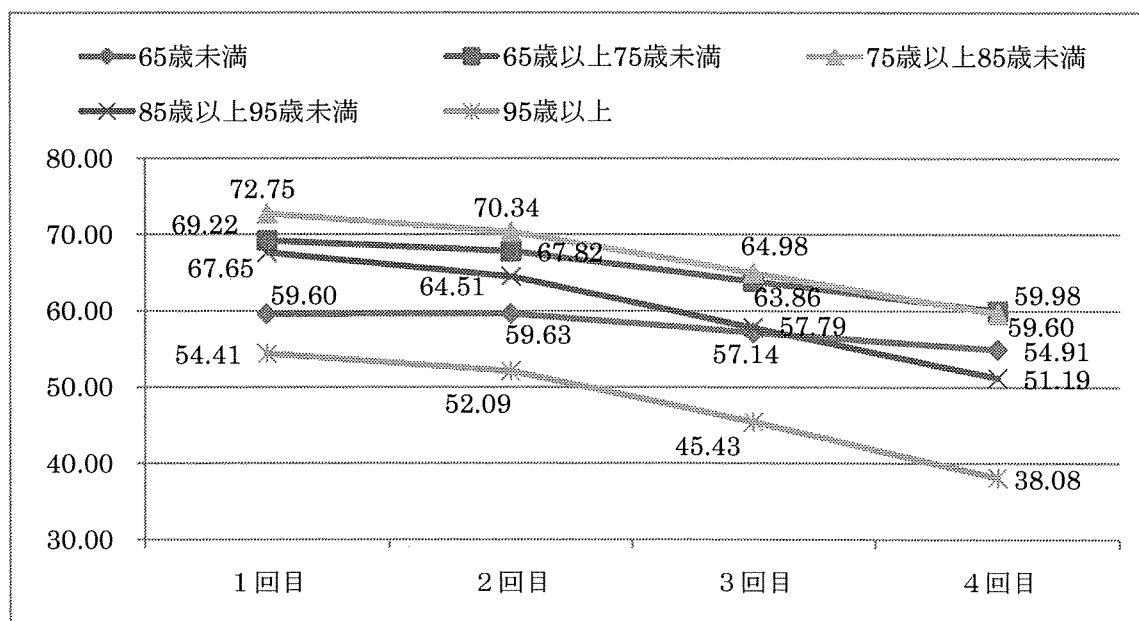


図 2-28 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

4) 男女別年齢別階層別

① 男性

男女別年齢階層別に要介護高齢者における第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点を比較した結果、男性においては、65 歳未満に加えて 95 歳以上においても 1 回目から 2 回目において有意差はなかった。その他は、全体の年齢階層別分析と同様、すべての認定回数すべての年齢階層において 1 回目から 4 回目にかけて、回数を経るごとに有意に得点が低下していた。

表 2-29 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）

認定回数	65 歳未満 (N=1,375)	65 歳以上 75 歳 未満(N=5,802)	75 歳以上 85 歳 未満(N=9,368)	85 歳以上 95 歳 未満(N=5,639)	95 歳以上 (N=285)
1回目	55.39	61.83	66.43	67.78	57.60
		**	**	**	
2回目	55.64	60.61	64.06	64.65	55.90
	**	**	**	**	**
3回目	53.19	56.36	58.20	57.68	49.89
	**	**	**	**	**
4回目	51.47	51.87	51.74	50.39	41.18

**P<0.01 *P<0.05

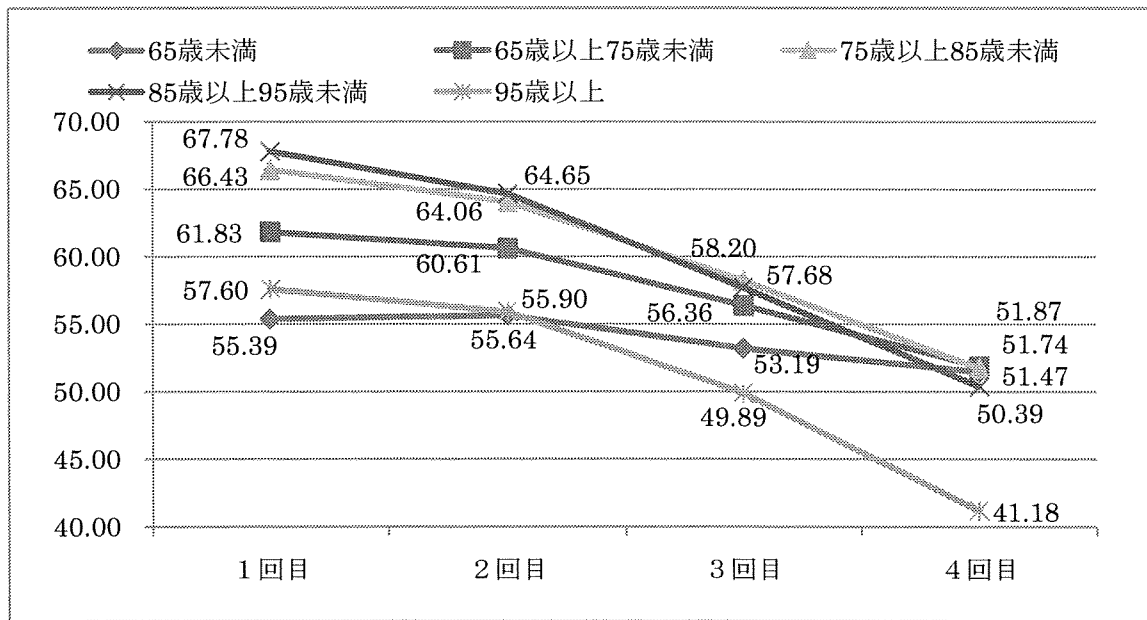


図 2-29 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）

② 女性

女性においては、65歳未満において1回目から2回目において有意差は見られなかった。その他については、全体の年齢階層別分析と同様、すべての認定回数すべての年齢階層において1回目から4回目にかけて、回数を経るごとに有意に得点が低下していた。

表 2-30 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）

認定回数	65歳未満 (N=13,94)	65歳以上75歳 未満(N=8,241)	75歳以上85歳 未満(N=23,726)	85歳以上95歳 未満(N=15,833)	95歳以上 (N=997)
1回目	63.75	74.43	75.25	67.61	53.50
2回目	63.58	72.90	72.81	64.46	51.00
3回目	61.04	69.15	67.66	57.83	44.16
4回目	58.30	65.69	62.71	51.47	37.19

**P<0.01 *P<0.05

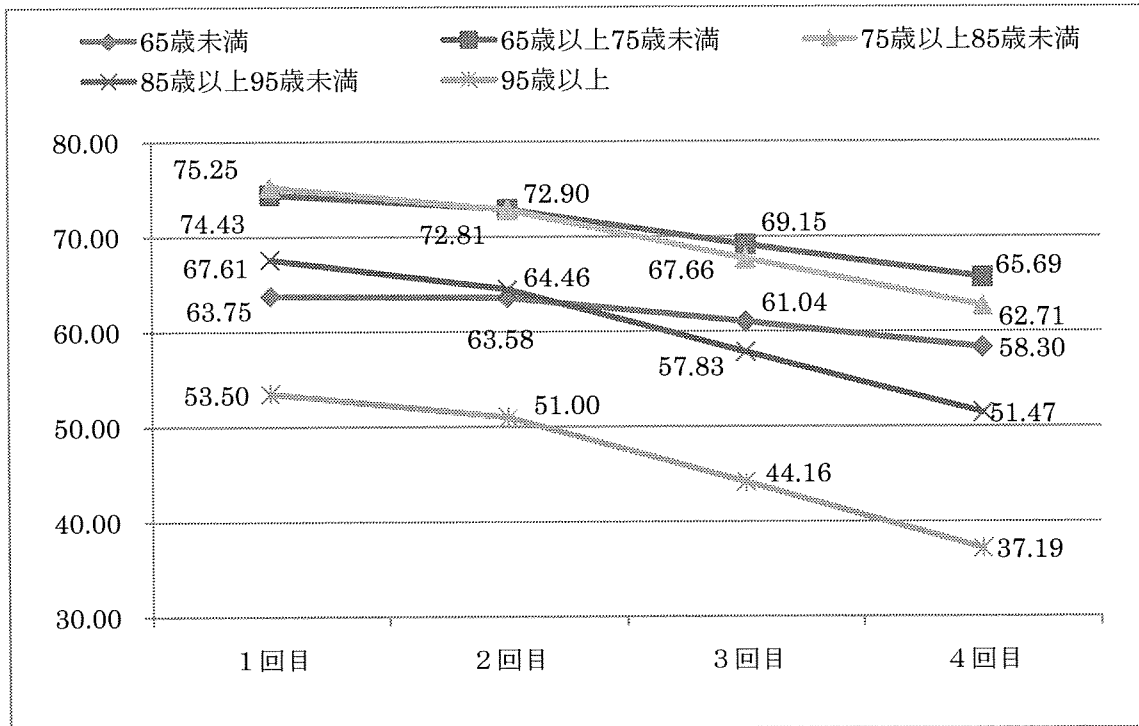


図 2-30 年齢階層別第 5 群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）

7. 第6群（コミュニケーション等関連）中間評価項目得点の経年的変化

1) 調査対象者全体

要介護高齢者における第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点は、1回目 89.77点、2回目 82.44点、3回目 85.58点、4回目 88.27点と回数を経るごとに点数が有意に低下していた。

表 2-31 第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	サンプル数	平均値	標準偏差	変動係数	最小値	最大値
1回目	72660	89.77	15.94	0.18	0	100
2回目	72660	88.27	17.09	0.19	0	100
3回目	72660	85.58	19.63	0.23	0	100
4回目	72660	82.44	22.27	0.27	0	100

**P<0.01 *P<0.05

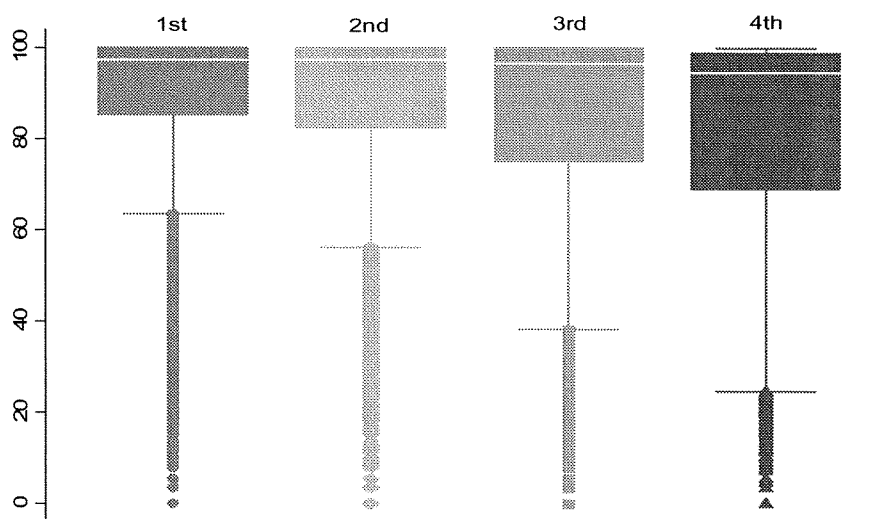


図 2-31 第6群（コミュニケーション等に関連する項目）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）

2) 男女別

男女別に要介護高齢者における第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点を比較した結果、男女ともに回数を経るごとに得点は有意に低下していた。また、女性が男性より得点が有意に高い傾向が見られるのは、2回目と3回目のみであった。

表 2-32 男女別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	男性(N=22,469)	女性(N=50,191)	男女差
1回目	89.76	89.78	**
2回目	88.66	88.09	**
3回目	85.96	85.41	**
4回目	82.49	82.42	

**P<0.01 *P<0.05

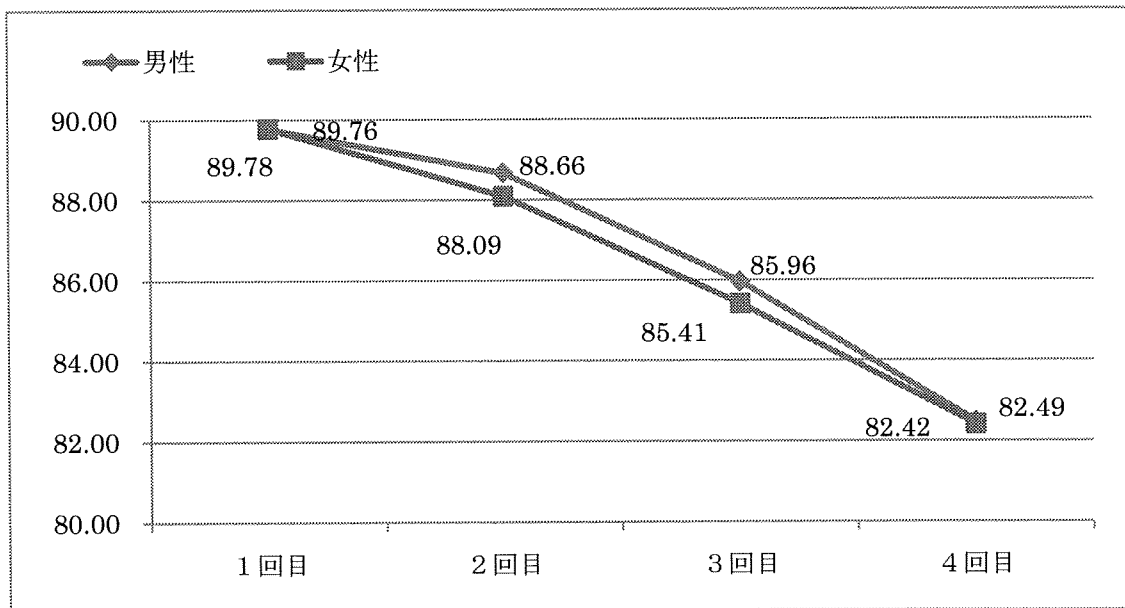


図 2-32 男女別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

3) 年齢階層別

年齢階層別に要介護高齢者における第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点を比較した結果、65歳未満の1回目から2回目にかけて、得点が有意に上昇していたが、その他については、いずれの認定回数においても回数を寝るごとに点数が有意に低下していた。

表 2-33 年齢階層別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	65歳未満 (N=2,769)	65歳以上75歳未満 (N=14,043)	75歳以上85歳未満 (N=33,094)	85歳以上95歳未満 (N=21,472)	95歳以上 (N=1,282)
1回目	90.12	91.50	90.69	87.62	82.41
2回目	90.54	90.82	89.06	85.54	80.46
3回目	89.57	88.96	86.42	82.13	76.23
4回目	87.94	86.84	83.34	78.12	71.53

**P<0.01 *P<0.05

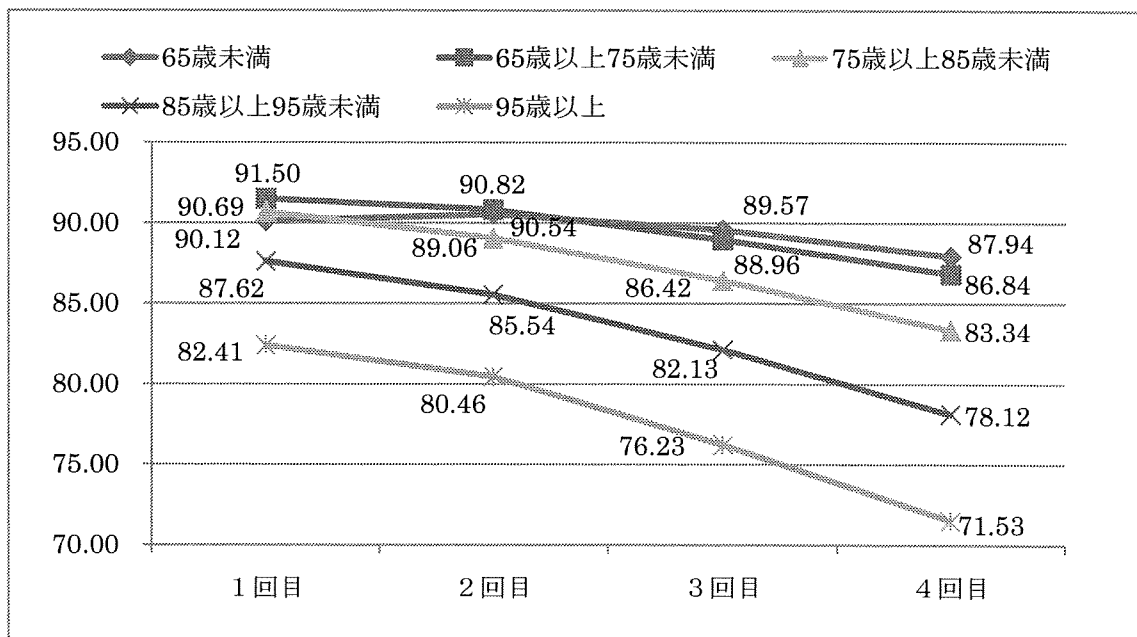


図 2-33 年齢階層別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化

4) 男女別年齢階層別

① 男性

男女別年齢階層別に要介護高齢者における第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点を比較した結果、男性においては、65歳未満については1回目から2回目にかけてわずかに得点が上層していたが、そのほかの年齢階層については、いずれの認定回数においても、1回目から4回目にかけて、回数を経るごとに有意に得点が低下していた。

表 2-34 年齢階層別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）

認定回数	65歳未満 (N=1,375)	65歳以上75歳未満 (N=5,802)	75歳以上85歳未満 (N=9,368)	85歳以上95歳未満 (N=5,639)	95歳以上 (N=285)
1回目	89.24	90.38	90.05	88.91	87.08
2回目	90.00	89.92	88.77	87.07	84.49
3回目	88.76	87.93	85.79	83.84	80.06
4回目	87.08	85.42	82.05	79.47	75.30

**P<0.01 *P<0.05

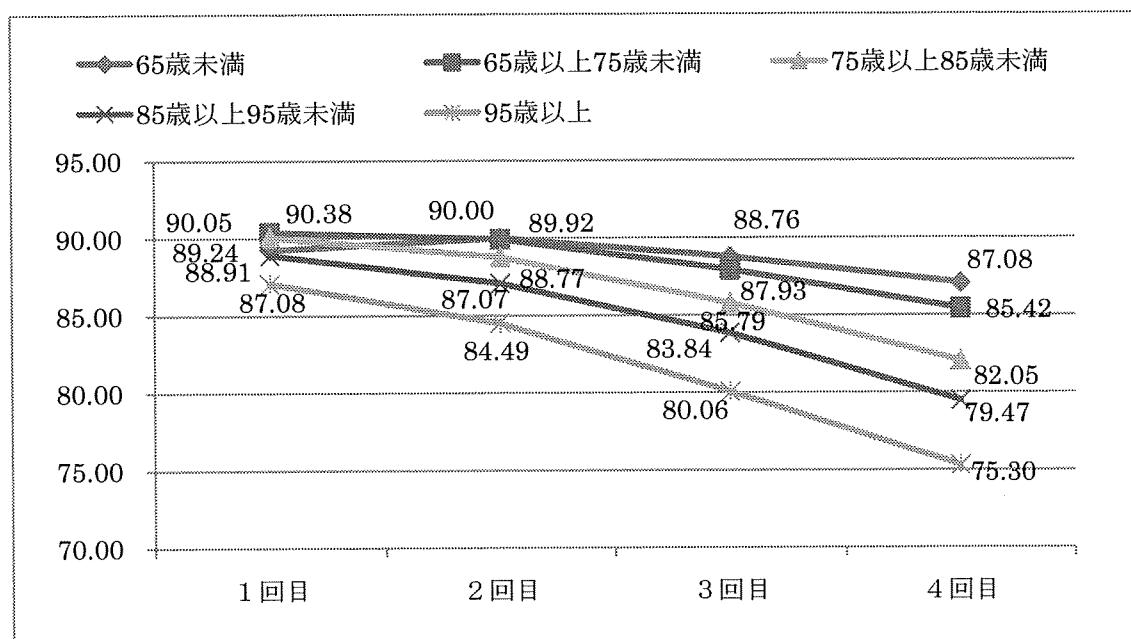


図 2-34 年齢階層別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）

② 女性

女性においては、65歳未満において1回目から2回目においては有意差は見られなかったが、その他は、全体の年齢階層別分析と同様に、すべての認定回数すべての年齢階層において1回目から4回目にかけて、回数を経るごとに有意に得点が低下していた。

表 2-35 年齢階層別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）

認定回数	65歳未満 (N=13,94)	65歳以上75歳未満 (N=8,241)	75歳以上85歳未満 (N=23,726)	85歳以上95歳未満 (N=15,833)	95歳以上 (N=997)
1回目	91.00	92.29	90.95	87.16	81.07
2回目	91.07	91.46	89.18	84.99	79.31
3回目	90.36	89.68	86.67	81.52	75.13
4回目	88.78	87.84	83.85	77.63	70.45

**P<0.01 *P<0.05

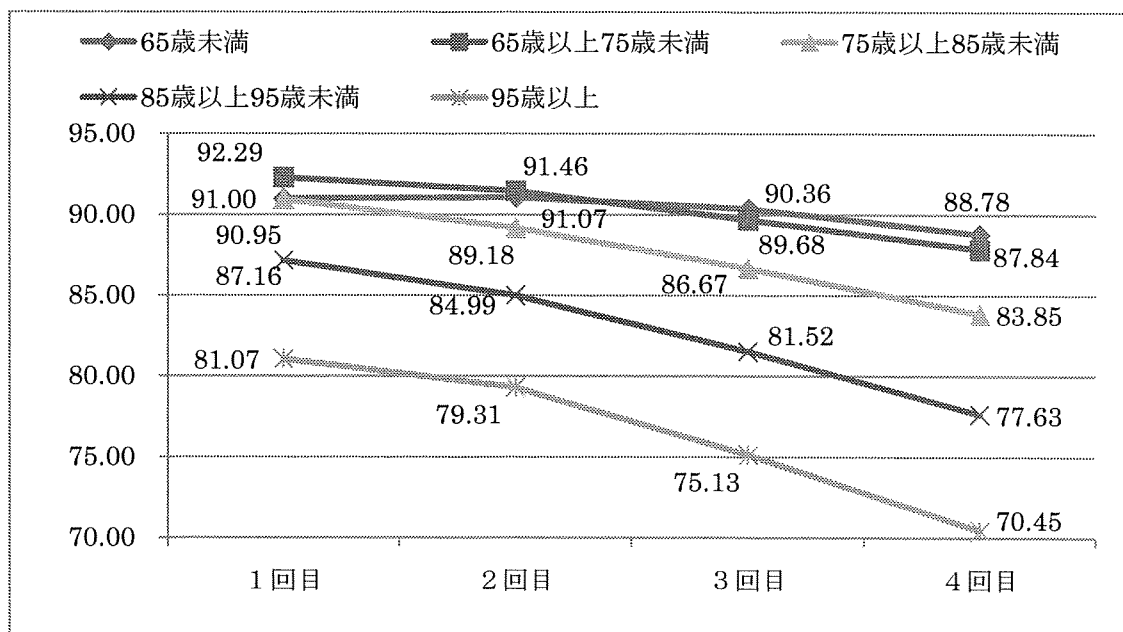


図 2-35 年齢階層別第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）

8. 第7群（問題行動関連）中間評価項目得点の経年的変化

1) 調査対象者全体

要介護高齢者における第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点は、1回目 93.31点、2回目 93.20点、3回目 92.68点、4回目 92.47点と回数を経るごとに点数が有意に低下していた。

表 2-36 第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	サンプル数	平均値	標準偏差	変動係数	最小値	最大値
1回目	72660	93.31	11.56	0.12	0	100
2回目	72660	93.20	11.56	0.12	0	100
3回目	72660	92.68	12.13	0.13	0	100
4回目	72660	92.47	12.22	0.13	0	100

**P<0.01 *P<0.05

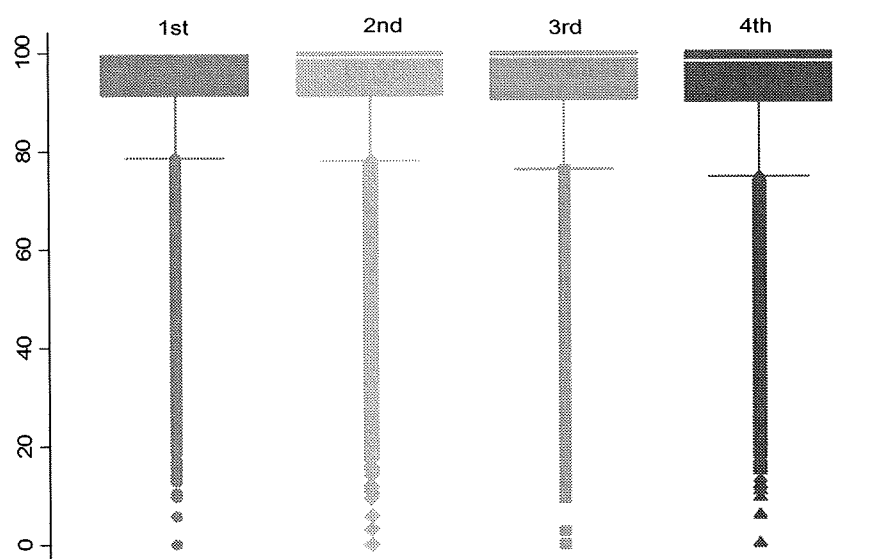


図 2-36 第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の推移（ボックスチャート）

2) 男女別

男女別に要介護高齢者における第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点を比較した結果、男性における1回目から2回目にかけてのみに有意差が見られず、その他の認定回数間においては回数を経るごと点数が有意に低下していた。男女差は、これまでの点数とは逆に男性のほうがいずれの認定回数においても有意に高い傾向が示された。

表 2-37 男女別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	男性(N=22,469)	女性(N=50,191)	男女差
1回目	93.50	93.23	*
2回目	93.58	93.03	**
3回目	92.94	92.56	**
4回目	92.63	92.40	*

**P<0.01 *P<0.05

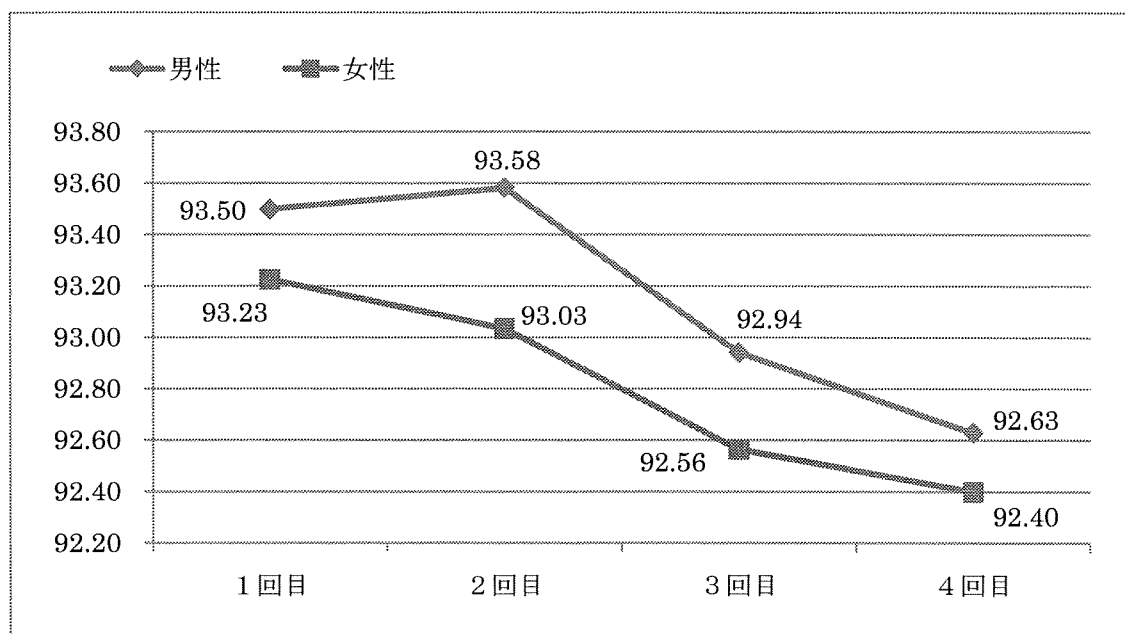


図 2-37 男女別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化

3) 年齢階層別

年齢階層別に要介護高齢者における第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点を比較した結果、他の中間評価項目得点とは大きく傾向が異なり、認定回数ごとの経年的な得点の低下がみられたのは、75歳以上85歳未満および85歳以上95歳未満のみであった。65歳以上75歳未満については、2回目から3回目にかけてのみ有意に得点が低下していたが、他には有意な差はなかった。

表 2-38 年齢階層別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化

認定回数	65歳未満	65歳以上75歳	75歳以上85歳	85歳以上95歳	95歳以上
	(N=2,769)	未満 (N=14,043)	未満 (N=33,094)	未満 (N=21,472)	(N=1,282)
1回目	95.00	94.25	93.39	92.43	91.95
2回目	95.11	94.32	93.24	92.24	92.19
3回目	95.07	93.91	92.71	91.57	91.85
4回目	94.95	93.79	92.41	91.42	91.90

**P<0.01 *P<0.05

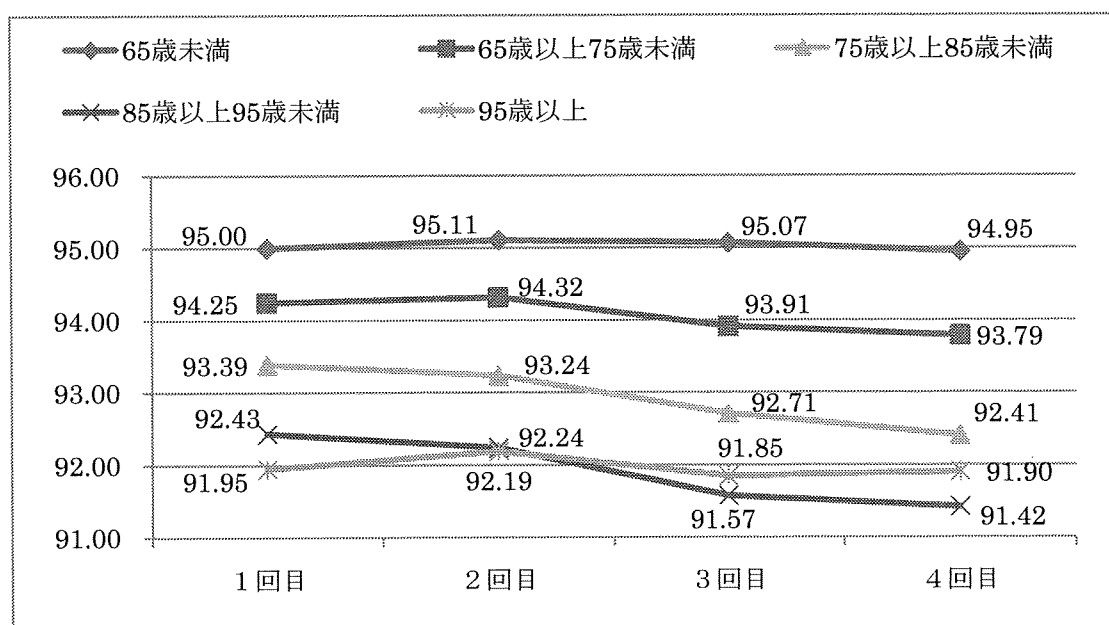


図 2-38 年齢階層別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化

4) 男女別年齢別階層別

① 男性

男女別年齢階層別に要介護高齢者における第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点を比較した結果、男性においては、1回目から2回目にかけてはいずれの年齢階層においても、有意差は見られなかった。その他の認定回数については、全体の年齢階層別の分析と同様、75歳以上85歳未満および85歳以上95歳未満のみ経年的な得点の低下がみられた。

表 2-39 年齢階層別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）

認定回数	65歳未満 (N=1,375)	65歳以上75歳 未満(N=5,802)	75歳以上85歳 未満(N=9,368)	85歳以上95歳 未満(N=5,639)	95歳以上 (N=285)
1回目	94.52	93.74	93.36	93.30	92.27
2回目	94.56	93.95	93.46	93.18	93.23
3回目	94.74	93.54	92.73	92.28	92.05
4回目	94.57	93.35	92.34	91.90	92.29

**P<0.01 *P<0.05

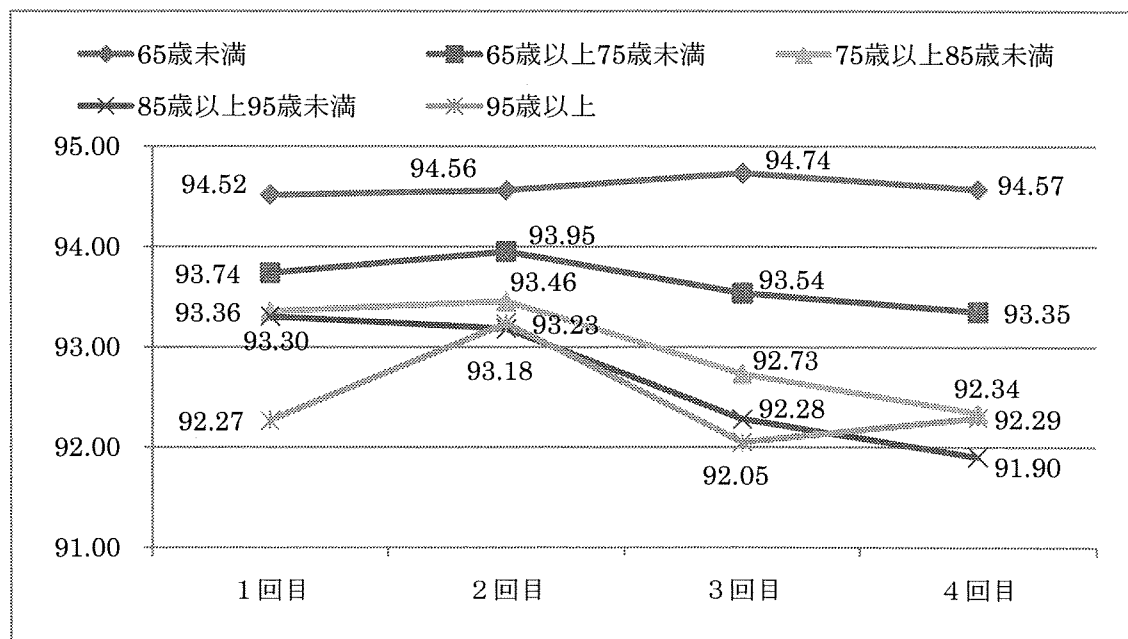


図 2-39 年齢階層別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化（男性）

② 女性

女性においては、1回目から4回目のすべての認定回数間に有意に得点が低下したのは、75歳以上85歳未満のみであった。また、65歳以上75歳未満においては、2回目と3回目のみ、85歳以上95歳未満は1回目から3回目にかけて得点が有意に低下していた。

なお、65歳未満および95歳以上については、すべての認定回数において得点の変動について有意差が示されなかった。

表 2-40 年齢階層別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）

認定回数	65歳未満 (N=13,94)	65歳以上75歳 未満(N=8,241)	75歳以上85歳 未満(N=23,726)	85歳以上95歳 未満(N=15,833)	95歳以上 (N=997)
1回目	95.48	94.60	93.41	92.12	91.85
2回目	95.64	94.57	93.15	91.90	91.89
3回目	95.40	94.17	92.70	91.32	91.79
4回目	95.32	94.09	92.43	91.24	91.79

**P<0.01 *P<0.05

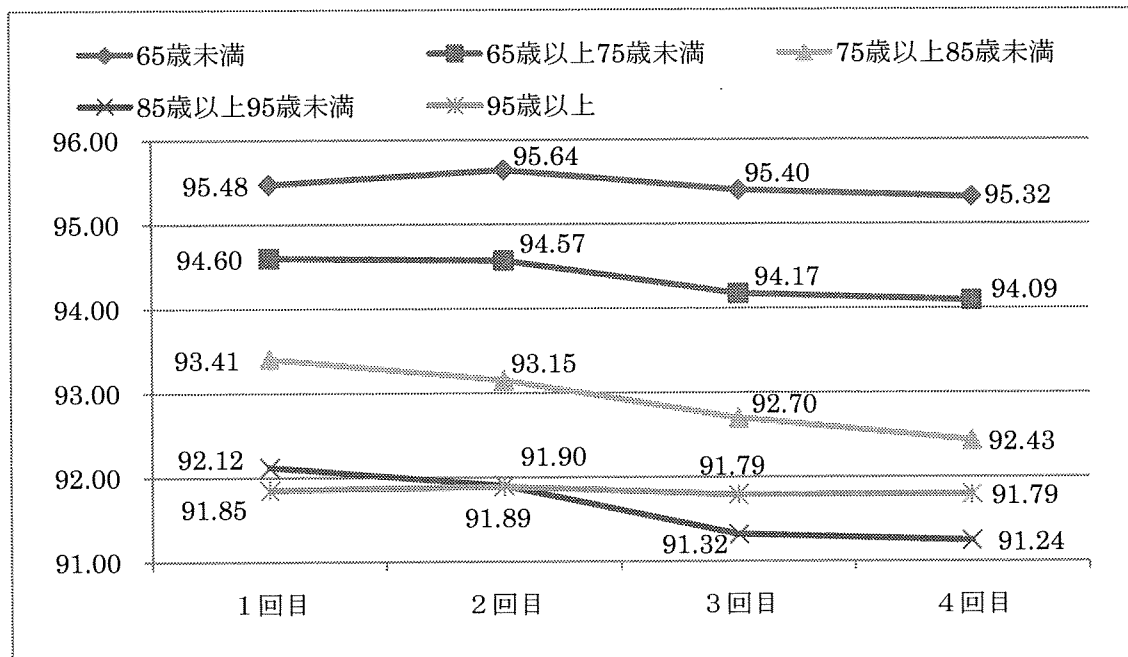


図 2-40 年齢階層別第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点の経年的変化（女性）

9. まとめ

(1) 要介護認定等基準時間

調査対象の要介護認定基準時間は、1回目から2回目にかけては、ほとんど変化はなく、統計的有意差も見られなかった。また、2回目以降の認定基準時間については、いずれも回を重ねるごとに長くなる傾向が示された。これは年齢階層別に分析の結果についても同様であった。

認定回数ごと得点の男女差については、男性は女性よりいずれの認定回数においても時間が有意に長かった。男女別の経年的変化においては、1回目と2回目に特徴があり、有意差は示されなかったものの、男性は時間が短くなる傾向があった一方で女性の時間は長くなっており、男女の経年的変化の傾向に違いがあるものと推察された。

年齢階層別の経年的変化についても、1回目から2回目には特徴が見られ、65歳未満、65歳以上75歳未満については、要介護認定基準時間が有意に低下、すなわち介護の手間に関わる時間が短くなっていた。しかし、それ以降の年齢階層では、95歳以上を除き有意に長くなっていた。

また、男女別年齢階層別の経年的変化においては、男性は1回目から2回目にかけては、65歳未満のみ有意に時間が低下していた。しかし、75歳以上には、有意差はなく、65歳未満の男性においてのみの傾向が示されていたものと考えられた。

女性は、1回目から2回目にかけて、75歳以上85歳未満、85歳以上95歳未満では有意に時間が長くなっていたが、その他の群では、長くなる傾向はみられたものの、有意な差はなかった。

このように男女別年齢階層別にみると、1回目から2回目にかけて男性65歳未満において時間が減少し、女性の75歳以上95歳未満において時間が増加していた。この結果は、要介護高齢者において、男女別、年齢階層別に、経年的変化が異なる群があることを示したといえ重要である。

(2) 第1群（麻痺・拘縮等）

調査対象の第1群（麻痺・拘縮等）の中間評価項目得点は、認定を受けるたびに有意に低下しており、状態が悪くなる傾向があったが、変動係数も回数が増加するほど大きくなっており、個人差が大きいことが推察された。また、2回目以降の得点については、いずれも回を重ねるごとに高くなる傾向が示された。これは年齢階層別にも同様の傾向であった。

いずれの認定回においても女性の得点が男性の得点よりも有意に高く、状態が良いことを示していた。男女別の経年的変化をみると、要介護高齢者における第1群（麻痺・拘縮

等) の中間評価項目得点は、すべての年齢階層において 1 回目から 4 回目にかけて、回数を経るごとに有意に得点が低下していた。これは年齢階層別にも同様の傾向であった。

さらに、男女別年齢階層別に経年的変化をみると、女性では、いずれの年齢階層においても認定回数を経るごとに得点が低下していたが、男性は、65 歳未満の 2 回目から 3 回目、95 歳以上の 1 回目から 2 回目にかけては、有意な低下は示されなかった。つまり、男性の最も高齢群である 95 歳以上の 1 回目から 2 回目にかけてと、最も若年群である 65 歳未満の 2 回目から 3 回目を除いて、男女ともに、他の年齢階層では、経年的に悪化する傾向が見られた。

(3) 第 2 群 (移動等に関連する項目)

調査対象の第 2 群 (移動等関連) の中間評価項目得点は、認定回数を経るごとに得点が有意に低下する傾向があり、いわゆる状態が悪くなる傾向が示された。しかし、変動係数も回数が増加するほど大きくなっており、個人差が年齢を経るごとに大きくなることを示していた。2 回目以降の得点は、認定回を重ねるごと低下する傾向が示された。これは層別に分析を行っても同様の傾向であった。

認定回数ごとの男女差は、1 回目、4 回目において男性より女性のほうが有意に高かったが、2 回目および 3 回目については、有意差が見られなかった。男女別の経年的変化をみると、男性は、1 回目から 2 回目にかけて有意差はなかった。

年齢階層別に比較した結果、1 回目から 2 回目にかけて 65 歳以上 75 歳未満および 95 歳以上については有意差が見られなかった。また、その他の 1 回目から 2 回目については、65 歳未満は有意に得点が高くなっていたが、75 歳以上 85 歳未満および 85 歳以上 95 歳未満については、逆に低下していた。

男女別年齢階層別に比較した結果、男性は、85 歳以上 95 歳未満および 95 歳以上の 1 回目から 2 回目にかけては変化はなく、65 歳未満と 65 歳以上 75 歳未満にかけてのみ、得点が有意に上昇していた。

女性では、65 歳未満、65 歳以上 75 歳未満、95 歳以上の 1 回目から 2 回目にかけては変化はなく、男性では、85 歳以上 95 歳未満の 1 回目から 2 回目にかけて、有意差は見られなかったが、女性においては有意に得点が低下していた。

認定回数ごとの得点の男女差が見られなかった (2・3 回目が有意差なし)。1 回目から 2 回目にかけて、年齢階層別にみると、65 歳未満と 65 歳以上 75 歳未満では上昇し、75 歳以上 85 歳未満および 85 歳以上 95 歳未満については、逆に低下するなど年齢階層での相違が顕著であった。

(4) 第3群（複雑な動作等に関連する項目）

調査対象の第3群（複雑な動作等関連）の中間評価項目得点は、認定回数を経るごとに得点が有意に低下する傾向があり、いわゆる状態が悪くなる傾向が示され、変動係数も回数が増加するほど大きくなっていった。また、2回目以降の得点については、いずれも回を重ねるごとく低下する傾向が示された。これは層別分析の結果も同様であった。

認定回数ごと得点の男女差は、いずれの認定回数においても、女性が男性より得点が有意に高かった。

年齢階層別に比較した結果、1回目から2回目にかけて、最も若年層である65歳未満の得点が上昇し、次に若い65歳以上75歳未満においては有意差は見られなかったが、75歳以上の年齢階層については、有意に得点が低下していた。

男女別年齢階層別には、男性は、全体の年齢階層別分析と1回目から2回目にかけて、95歳以上において有意差は見られなかっただけで、これ以外は、低下していた。

女性はいずれの年齢階層においても有意に低下していた。

第3群（複雑な動作等関連）は、男性の最も若い65歳未満の得点は高くなり、次に若い65歳以上75歳未満および95歳以上においては、変化がなかった以外は、女性と同様に有意に得点が低下していた。

(5) 第4群（特別な介護等関連）

調査対象の第4群（特別な介護等関連）の中間評価項目得点は、認定回数を経るごとに得点が有意に低下していた。変動係数も回数が増加するほど大きくなり個人差が大きいことがわかった。また、2回目以降の得点も回を重ねるごとに低下していた。

年齢階層別に比較した結果、1回目から2回目にかけて65歳未満では有意差は見られず、変化はなかったが、その他の年齢階層については得点が有意に低下していた。

男女別年齢階層別に比較した結果、男性は、1回目から2回目にかけて65歳以上75歳未満および95歳以上では変化がなく、その他の年齢階層では得点が有意に低下していた。

女性は、1回目から2回目にかけて65歳以上75歳未満で変化はなかったが、その他の年齢階層では得点が有意に低下していた。

第4群（特別な介護等関連）では、65歳未満、男性の65歳以上75歳未満および95歳以上、女性の65歳以上75歳未満以外は経年的に得点が低下（悪化）している傾向が示されていた。

(6) 第5群（身の回りの世話等関連）

調査対象の第5群（身の回りの世話等関連）の中間評価項目得点は、認定回数を経るご

とに得点が有意に低下する傾向があり、いわゆる状態が悪くなる傾向が示された。同時に変動係数も回数が増加するほど大きくなり、個人差が大きくなっていた。また2回目以降の得点は、いずれも回を重ねるごとに低下していた。

認定回数ごと得点の男女差は、いずれの認定回数においても、女性が男性より得点がありに高かった。

年齢階層別に分析した結果からは、1回目から2回目の得点の変化を比較すると、65歳未満を除き、有意に得点が低下していた。男性は、65歳未満に加えて95歳以上においても1回目から2回目において有意差はなかった。

第5群（身の回りの世話等関連）では、男性より女性のほうが得点が高く、男女ともに最も若年層である65歳未満においては1回目から2回目にかけては変化がなかった。

(7) 第6群（コミュニケーション等関連）

調査対象の第6群（コミュニケーション等関連）の中間評価項目得点は、認定回数を経るごとに得点が有意に低下していた。変動係数も回数が増加するほど大きくなり、個人差が大きくなっていた。2回目以降の得点は、いずれも回を重ねるごと低下する傾向が示された。

認定回数ごとの得点の男女差は、他の群とは異なり、女性が男性より得点がありに高い傾向が見られるのは、2回目と3回目のみであった。1回目から2回目の得点の経年的変化については、年齢階層別に比較した結果、最も若年層である65歳未満については、低下が見られず、女性は変化がなく、男性は有意に得点が上昇するという他の年齢階層とは異なる傾向が示された。

このように第6群（コミュニケーション等関連）は、男女差が顕著でないことが特徴であった。また若年層の1回目から2回目かけて改善の傾向が見られるという点も第2群（移動等関連）に類似した傾向であり、コミュニケーション機能の経年的変化の特徴といえる。

(8) 第7群（問題行動関連）

調査対象の第7群（問題行動関連）の中間評価項目得点は、認定回数を経るごとに得点がありに低下していた。また男性は、1回目から2回目にかけては、低下していなかった。

認定回数ごと得点の男女差については、これまでの点数とは逆に男性のほうがいずれの認定回数においても有意に高かった。年齢階層別に比較した結果、他の中間評価項目得点とは大きく傾向が異なり、認定回数ごとの経年的な得点の低下がみられたのは、75歳以上85歳未満および85歳以上95歳未満のみであった。65歳以上75歳未満については、2回目から3回目にかけてのみ有意に得点が低下していたが、他には有意な差はなかった。